

JIS

オーステナイト 鋳鉄品

JIS G 5510 : 2012

(JFS/JSA)

平成 24 年 1 月 20 日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本工業標準調査会標準部会 鉄鋼技術専門委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	佐久間 健 人	高知工科大学
(委員)	磯 村 陽 治	一般社団法人日本鉄道施設協会
	岩 本 佐 利	一般社団法人日本電機工業会
	宇 治 公 隆	首都大学東京
	大 岡 紀 一	社団法人日本非破壊検査協会 (社団法人日本溶接協会)
	太 田 幸 男	高压ガス保安協会
	北 田 博 重	一般財団法人日本海事協会
	吉 良 雅 治	社団法人日本産業機械工業会
	櫛 田 宏 一	JFE スチール株式会社
	小 林 美寿夫	ステンレス協会
	田 中 龍 彦	東京理科大学
	千 葉 光 一	独立行政法人産業技術総合研究所
	寺 澤 富 雄	新日本製鐵株式会社
	戸河里 敏	社団法人日本建設業連合会 (鹿島建設株式会社)
	長 井 寿	独立行政法人物質・材料研究機構
	橋 本 隆	公益社団法人自動車技術会 (日野自動車株式会社)
	安 田 素 郎	一般社団法人日本鉄鋼連盟

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：昭和 62.11.1 改正：平成 24.1.20

官 報 公 示：平成 24.1.20

原 案 作 成 者：社団法人日本鋳造協会

(〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 TEL 03-3432-2991)

財団法人日本規格協会

(〒107-8440 東京都港区赤坂 4-1-24 TEL 03-5770-1571)

審 議 部 会：日本工業標準調査会 標準部会 (部会長 稲葉 敦)

審議専門委員会：鉄鋼技術専門委員会 (委員長 佐久間 健人)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省産業技術環境局 基準認証ユニット産業基盤標準化推進室 (〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1) にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第 15 条の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

目 次

	ページ
序文	1
1 適用範囲	1
2 引用規格	1
3 用語及び定義	1
4 種類の記号及び分類	2
5 注文情報	3
6 製造業者の責務	3
7 鋳鉄品	3
7.1 化学成分	3
7.2 熱処理	4
7.3 機械的性質	4
7.4 物理的性質又は特定の機械的性質	5
7.5 内部の健全性	5
7.6 形状, 寸法, 寸法公差, 削り代及び質量	5
7.7 外観	6
7.8 性質及び用途例	6
8 供試材	6
8.1 一般	6
8.2 別鑄込み供試材	6
8.3 本体付き供試材	8
8.4 試験片の採取方法	9
9 試験	10
9.1 化学分析	10
9.2 機械試験	10
9.3 物理的性質又は特定の機械的性質の試験	10
9.4 非破壊試験	10
10 再試験	10
10.1 再試験の必要性	10
10.2 無効となる試験	10
10.3 引張試験又はシャルピー衝撃試験結果の一部不適合の場合	10
10.4 供試材及び鋳鉄品の熱処理	10
11 検査	11
12 表示	11
13 報告	11

	ページ
附属書 A (参考) オーステナイト 鑄鉄品の性質及び用途例	12
附属書 B (参考) 熱処理	14
附属書 C (参考) 代表的な物理的性質及び特定の機械的性質	15
附属書 D (参考) JIS, 国際規格及び外国規格における種類の記号の対比表	19
附属書 E (参考) 物理的性質測定用試験片	20
附属書 JA (参考) JIS と対応国際規格との対比表	21
解 説	24

まえがき

この規格は、工業標準化法第 14 条によって準用する第 12 条第 1 項の規定に基づき、社団法人日本鋳造協会（JFS）及び財団法人日本規格協会（JSA）から、工業標準原案を具して日本工業規格を改正すべきとの申出があり、日本工業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が改正した日本工業規格である。

これによって、**JIS G 5510:1999** は改正され、この規格に置き換えられた。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣及び日本工業標準調査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願及び実用新案権に関わる確認について、責任はもたない。

白 紙

オーステナイト鋳鉄品

Austenitic iron castings

序文

この規格は、2007年に第2版として発行されたISO 2892を基に、技術的内容を変更して作成した日本工業規格である。

なお、この規格で点線の下線を施してある箇所は、対応国際規格を変更している事項である。変更の一覧表にその説明を付けて、附属書JAに示す。

1 適用範囲

この規格は、オーステナイト鋳鉄品（以下、鋳鉄品という。）について規定する。

なお、鋳鉄品は、次のa)～c)によって規定する。

- a) 黒鉛形状及び基地組織（オーステナイト基地中に片状黒鉛又は球状黒鉛のいずれかを含む。）
- b) 各種の化学成分
- c) 別鑄込み供試材の機械的性質

注記 この規格の対応国際規格及びその対応の程度を表す記号を、次に示す。

ISO 2892:2007, Austenitic cast irons—Classification (MOD)

なお、対応の程度を表す記号“MOD”は、ISO/IEC Guide 21-1に基づき、“修正している”ことを示す。

2 引用規格

次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

JIS B 0403 鑄造品一寸法公差方式及び削り代方式

JIS G 0201 鉄鋼用語（熱処理）

JIS G 0320 鋼材の溶鋼分析方法

JIS Z 2241 金属材料引張試験方法

注記 対応国際規格：ISO 6892-1, Metallic materials—Tensile testing—Part 1: Method of test at room temperature (MOD)

JIS Z 2242 金属材料のシャルピー衝撃試験方法

JIS Z 8401 数値の丸め方

3 用語及び定義

この規格で用いる主な用語及び定義は、JIS G 0201によるほか、次による。